# スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージ

### 2016年2月21日

### スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕154周年記念祝賀会

### スワーミー・メーダサーナンダによる講話

### 於・逗子協会

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワーミージー）という人物は氷山のようです。先端は見えるけれど、大部分は水の中に隠れていて見えません。スワーミージーの人格のうち目に見える部分は議論や分析のテーマにもなっていますが、目に見えない部分がどのようであるかは全く見当がつきません。本当のスワーミー・ヴィヴェーカーナンダがどのような人物なのかは、もう一人のスワーミー・ヴィヴェーカーナンダにしか分からない、と言う人もいます。いずれにしても、スワーミージーの人格のうち私たちが知っている部分がいかに少ないかを知ろうとしても、あまり意味はありません。

スワーミージーに関して重要な点は、人にインスピレーションを与える大きな力があるということです。インド人の間ではもちろんのこと、インド以外の国の人々にとってもこれは明らかです。たとえばこの日本で、私は若い人から「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは私のヒーローです」と打ち明けられたことが何度かあります。これには大変驚きました。こうした若者らは私たちやヴェーダーンタ協会のことを知っていたわけではないのですが、それでもスワーミージーを自分の「ヒーロー」だと思っているのです。スワーミージーのメッセージは宗教や国、人種などの壁を越え、様々な国や宗教の人々にとってインスピレーションの源となっているのです。

スワーミージーの呼びかけは、私たちの内なる霊、魂に対するものであり、霊から霊の、魂から魂への呼び声でした。そして、僧侶の口から出てくるとは思えないような言葉を数多く残されました。たとえば、普通、有神論者とは神を信じる人であり無神論者とは神を信じない人のことを指します。しかし、スワーミージーは全く逆のことをおっしゃいました。真の有神論者とは自分自身を信じる人であり、神を信じていても自分を信じていない人は無神論者であるとおっしゃったのです。また、たいていの僧侶は寺院に祀られている神様や天国の神様を礼拝するよう言ったものですが、スワーミージーは、世界中の虐げられた人々、貧しい人々、搾取されている人々が自分の神様であるとおっしゃいました。このような言葉から、スワーミージーが普通のお坊さんとはどれ程違うかが分かりますね。

また、お坊さんや司祭の中には、私たちは今生では霊的修行をしたり苦しんだりしなければならないが天国に行けば報われる、と説く人がいます。一方、スワーミージーはよくこうおっしゃいました。「今生で苦しい思いをさせ来世での幸福を約束する神など私は信じない」これはもちろん、スワーミージーが神様を信じていらっしゃらないとか霊的修行や苦行は正しくないと思っていらっしゃるというのではありません。今生を私たちが頑張って生きれば、神様は今生で私たちの努力を支えてくださるという意味です。

スワーミージーのインスピレーションにどれ程大きな力があったかをお話ししましたが、実際、スワーミージーに勇気づけられたという人は何百万人もいます。亡くなられて百年以上が経った今でも、私を含め、多くの人々の魂を鼓舞し続けています。そのような人の例をいくつか挙げてみましょう。

あるインド人の女性が、事故で片足を失ったにもかかわらず世界の最高峰エベレストに登頂しました。一見不可能とも思えるこの偉業はどのように達成されたのでしょうか。一緒に登っていたシェルパのガイドが見たところによると、女性は登山中に時々立ち止まり、ポケットから小さな本を取り出して少し読むと本をポケットに戻し、再び登り始める、というのを続けたそうです。この行動にこのシェルパは少々苛立ちを覚えました。こんなことをしているからスケジュールが遅れるんだと感じたのです。更に、上に行く程天候が悪くなっていきました。やっと頂上に着いた時、女性は小さな祭壇をこしらえてシュリー・ラーマクリシュナとホーリー・マザー、スワーミージーの御三方の御写真、インドの国旗、それにスポンサーである有名企業のタタの旗を飾りました。

この女性が登山中に読んでいた本は、スワーミージーのメッセージを集めた本でした。後に女性は、インタビューを受けてスワーミージーのどのような所に特に惹かれるかと尋ねられた時、こう答えました。「ヴィヴェーカーナンダは類い稀な人です。そのすべてが、普通の人とはかけ離れています。あのように勇敢で英雄的な人物はめったにいません。私がエベレストに登るには、彼のような精神が必要だったのです」片足を失って義足でエベレストに登ったこの女性に、どれ程強い精神力があったか考えてみてください。「あの精神とは何でしょうか」と尋ねられて女性は答えました。「やり遂げる力、あきらめない力です」

私たちの多くは偉大になりたいと考えます。若い頃は夢があります。素晴らしいことをしたい、偉大な人間になりたい、と多少なりとも夢見るものですが、年を経るにつれ、自分は普通の人で終わるのだろう思うようになります。しかし、偉大な人間になりたいと思って本当にそうなる人も、ごくわずかですがいます。この違いはどこにあるのでしょうか。皆さん、どう思いますか。

（「偉大な人は、成功するまであきらめない人です」と、女性が答えました）

そうです、その通りです。違いは、決してあきらめない不屈の精神を持っていることです！

たいていの人は、何かうまく行かなかったり障害にぶつかったりすると、すぐにあきらめて他のことをやりたくなります。そして他のことをやってみて、またうまく行かなかったり思っていた程面白くなかったりすると、またあきらめます。私たちは最後までやり続けなければなりません。「倒れても最後までやり抜くぞ」という精神が欠けているのです。偉大な人物になる人はあきらめません。先ほどの、エベレスト登頂に成功した女性アルニマ・シンハさんの例からもよく分かりますね。困難な状況の中、死の危険に直面しながらも、あきらめずにエベレストを征服したのです。

私たちの多くは、理想を語るだけで実際には何もしないものです。社会の平等や慈善活動、悟りのためのヨーガなどについて語り理想を口にしますが、結局は口先ばかりで、目標に到達する途中に待ち受ける困難に立ち向かう心の準備はないのです。ほとんど前には進みません。シンハさんはスワーミージーの比類ない人格について、更にこう言いました。「スワーミージーは花のように優しく愛のあふれた人でもあります。このような性質を持ち合わせた人が他にいるでしょうか」

数年前の1月12日、インドの有名な新聞タイムズ・オブ・インディア（The Times of India）に「Vivekananda: My teen icon wore saffron（ヴィヴェーカーナンダ：十代の僕の憧れの人はサフラン色の服（僧衣の意）を着ていた）」という記事が掲載されました。ナレンはスワーミージーが出家される前の俗名で、この日は西暦でスワーミージーの誕生日に当たる日でした。60代と思われる著者は記事の中で、16才の時にスワーミージーのメッセージを集めた本をたまたま手に入れ、以来繰り返し読み続けて今なおインスピレーションを得ていると言っています。少し引用してみます。「私は、高校3年生のある日、ヴィヴェーカーナンダの思想に出会い、以来その思想が頭から離れない」そして、スワーミージーの教えをすべて実践することはできなかったけれど、人生の様々な場面で導きやインスピレーションをもらった、と言っています。善悪とは何か、道徳と不道徳とは、自分のやるべき義務とは、などの疑問に対する答えを見つけることができたそうです。また、最大の罪とは何かを学んだそうです。最大の罪は嘘をつくことだとか、盗みだとかも言われますが、スワーミージーは、「恐れることが最大の罪」とおっしゃいました。

普通とは全く違う、何と深い見解でしょう。「恐れることが最大の罪」ということについて瞑想してみれば、多くの気付きと光を得られることでしょう。スワーミージーは、「われわれの犯すあらゆる罪の源は恐怖心である」とおっしゃいました。また、悪事を働くなら、英雄然として行え、ともおっしゃいました。盗むのなら、最高の泥棒になって名を馳せるのです。私たちの多くは、家族のことや社会的地位を失うことを恐れると道徳心が芽生えてきて、悪いことをしたら見つかるかもしれないと怖くなります。言い換えると、道徳的であろうとするのは恐怖心があるからなのです。しかし、恐れの気持ちにプレッシャーを感じてあれはする、これはしない、では、真に道徳的な人間にはなれません。著者はこう続けます。「それ以来、恐れるという罪は犯さないぞと心掛けている」

著者は更に、大志を抱く人は多くないと言い、偉大な人物になりたいと思って成功する人もいるが大半の人は失敗に終わるし、そもそも大部分の人は大志を抱くことさえしないと書いています。スワーミージーのメッセージは、「クラゲのような人生を送るよりも私は千回死ぬ方がよい」です。

そして著者はこう続けます。「ひどく落ち込んでいて誰に助けを求めればいいのだろうと思った時には、スワーミージーの言葉を思い出したものだった。『人間の助けなど私は足で蹴って突っぱねてやる。山野を越え、砂漠や森を抜け、常に私と一緒にいてくださった御方は、きっとこれからも一緒にいてくださる』」スワーミージーが言われているのは、いつも自分と一緒にいてくださったのは神様で、助けてくださるのは神様だけだということです。助けを求めるなら、神様にお願いしましょう。人間に求めれば、落胆に終わる可能性があります。友は私たちを見捨てるかもしれませんが、神様は決して見捨てません。ただし、忍耐強く待ち、これが神様の助けなのだと理解する知恵を持つ必要があります。

著者は、批判されたり責められたりしてどう対応しようかと考えた時には、スワーミージーのこの言葉を思い出したと言っています。「沈黙で通すこと、これが私を批判する者たちへの答えだと友に伝えてくれ。もしやり返したら、自分を彼らのレベルに貶めることになる」これを実践するには非常に大きな精神力が必要でしょう。私たちは普通、自分がされたことと同じ反応をするものです。辛辣なことを言われれば、辛辣なことを言い返します。しかし、スワーミージーのやり方は沈黙を通すのです。それは、真実は、誰の手も借りずとも最後に勝つからです。

更に著者は、理想の良い人生を送ろうと努力したものの富も名声も得られず、自分の人生は生きる価値があるのかと思い始めた時、スワーミージーのメッセージから答えが見つかったと書いています。「スワーミージーは、待てとおっしゃった。『待て、金があっても価値はない、名声にも学識にも価値はない。愛こそが報われるのだ。立ちはだかる困難の固い壁を突き抜けて進むのは人格だ。世界の歴史に、金持ちが成し遂げた偉業はあるか。偉業を成し遂げるのは常にハートと頭脳であり、財布ではないのだ』」

スワーミージーはこうもおっしゃいました。「人生で私が見たのはこれだ――自身のことに用心しすぎる人は一歩進むごとに危険に陥る。名誉や尊敬を失うことを恐れる人は恥ばかりかく。負けることを恐れてばかりいる人はいつも負ける」このように、著者の生涯を通じて、スワーミージーのメッセージがインスピレーションや光、導きを与えたのです。

スワーミージーのメッセージは数多くありますが、私が思うに、最も重要なものは「すべての力は我々の内にある」でしょう。私たちはその力を現さねばなりません。私たちの望むものが、平和、喜び、強さ、叡智など何であれ、その源は私たちの内にあるのです。普通の人は、知識、力、喜びを外に求めます。が、スワーミージーのアドバイスは「内に求めよ」でした。なぜなら、これらの永続する源、私たちの魂の真の性質は、絶対の存在、絶対の知識、絶対の力、絶対の自由、絶対の至福だからです。

ヴェーダーンタ協会やラーマクリシュナ・ミッションの目的は、自分の真の性質であるアートマンを悟りアートマンにつながる手助けをすることです。その理由は、そうすることで私たちが知識、真の幸福の至福、人生にとって重要なことをすべて得るからです。このために私たちは、カルマ・ヨーガ、ギャーナ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガ、バクティ・ヨーガの中から一つの道、または複数の道を選んで実践することができます。そして、内なる力と至福と幸福を見出すのです。これが、スワーミージーから全人類への、永遠で最も重要なメッセージなのです。

ありがとうございました。